

最近の調剤医療費(電算処理分)の動向の概要 ～平成 20 年度版～

1. 調剤医療費の全数と電算処理分の比較

平成 20 年度の電算処理割合は、医療費ベース、処方せん枚数ベースとも 9 割を超えている。処方せん 1 枚当たり調剤医療費について、調剤レセプト全体と電算処理分を比較すると、その差は 0.1%と小さい。

表 1 調剤医療費の全数と電算処理分の比較

平成		実数				対前年度比(%)		
		17年度	18年度	19年度	20年度	18年度	19年度	20年度
全数	調剤医療費(億円)	45,927	47,468	51,673	54,402	3.4	8.9	5.3
	処方せん枚数(万枚)	66,363	68,955	70,739	72,008	3.9	2.6	1.8
	1枚当たり調剤医療費(円)	6,921	6,884	7,305	7,555	▲0.5	6.1	3.4
電算処理分	調剤医療費(億円)	25,658	33,305	41,803	49,630	29.8	25.5	18.7
	電算化率(%)	55.9	70.2	80.9	91.2	—	—	—
	処方せん枚数(万枚)	36,777	48,106	57,089	65,638	30.8	18.7	15.0
	電算化率(%)	55.4	69.8	80.7	91.2	—	—	—
	1枚当たり調剤医療費(円)	6,977	6,923	7,322	7,561	▲0.8	5.8	3.3
	電算処理分／全数	1.008	1.006	1.002	1.001	—	—	—

2. 調剤医療費の内訳

処方せん1枚当たり調剤医療費(以下、電算処理分に限る。)の内訳をみると、技術料の割合が26.2%、薬剤料の割合が73.6%となっている。

対前年度比は、技術料が3.1%、薬剤料が3.3%となっており、処方せん1枚当たり調剤医療費全体では3.3%となっている。

表2 処方せん1枚当たり調剤医療費の内訳

	平成	実数				対前年度比(%)		
		17年度	18年度	19年度	20年度	18年度	19年度	20年度
調剤医療費(円)		6,977	6,923	7,322	7,561	▲0.8	5.8	3.3
技術料(円)		1,897	1,901	1,924	1,984	0.2	1.2	3.1
構成割合(%)		27.2	27.5	26.3	26.2	—	—	—
薬剤料(円)		5,069	5,011	5,387	5,565	▲1.2	7.5	3.3
構成割合(%)		72.7	72.4	73.6	73.6	—	—	—
内服薬薬剤料(円) (再掲)		4,301	4,245	4,573	4,713	▲1.3	7.7	3.0
特定保険医療材料料(円)		10	11	12	12	7.5	8.2	3.7
構成割合(%)		0.1	0.2	0.2	0.2	—	—	—

3. 年齢階級別の状況

処方せん1枚当たり調剤医療費を年齢階級別にみると、年齢とともに高くなり、75歳以上では9,491円と、0歳以上5歳未満の3,005円の約3倍となっている。

対前年度比は、比較的高齢層で伸び率の低下幅が大きい。

表3 年齢階級別処方せん1枚当たり調剤医療費

平成	実数(円)				対前年度比(%)		
	17年度	18年度	19年度	20年度	18年度	19年度	20年度
総数	6,977	6,923	7,322	7,561	▲0.8	5.8	3.3
0歳以上5歳未満	2,892	2,865	2,929	3,005	▲0.9	2.2	2.6
5歳以上10歳未満	3,838	3,750	3,875	3,993	▲2.3	3.3	3.1
10歳以上15歳未満	4,556	4,359	4,545	4,672	▲4.3	4.3	2.8
15歳以上20歳未満	4,558	4,492	4,694	4,902	▲1.5	4.5	4.4
20歳以上25歳未満	4,668	4,604	4,828	5,042	▲1.4	4.9	4.4
25歳以上30歳未満	4,892	4,856	5,103	5,316	▲0.7	5.1	4.2
30歳以上35歳未満	5,193	5,167	5,430	5,667	▲0.5	5.1	4.4
35歳以上40歳未満	5,664	5,643	5,957	6,231	▲0.4	5.6	4.6
40歳以上45歳未満	6,230	6,195	6,535	6,828	▲0.6	5.5	4.5
45歳以上50歳未満	6,824	6,767	7,120	7,376	▲0.8	5.2	3.6
50歳以上55歳未満	7,351	7,275	7,635	7,881	▲1.0	5.0	3.2
55歳以上60歳未満	7,828	7,751	8,133	8,345	▲1.0	4.9	2.6
60歳以上65歳未満	8,065	7,998	8,423	8,665	▲0.8	5.3	2.9
65歳以上70歳未満	8,290	8,192	8,600	8,817	▲1.2	5.0	2.5
70歳以上75歳未満	8,552	8,446	8,875	9,111	▲1.2	5.1	2.7
75歳以上	8,817	8,751	9,220	9,491	▲0.7	5.4	2.9

4. 処方せん 1 枚当たり薬剤料の 3 要素分解

内服薬の処方せん 1 枚当たり薬剤料 4,706 円を、処方せん 1 枚当たり薬剤種類数、投薬日数、1 種類 1 日当たり薬剤料に分解すると、各々 2.85、18.8 日、88 円となっている。

また、内服薬の処方せん 1 枚当たり薬剤料の伸び率 3.0%を、処方せん 1 枚当たり薬剤種類数の伸び率、投薬日数の伸び率、1 種類 1 日当たり薬剤料の伸び率に分解すると、各々 0.8%、5.3%、▲3.0%となっている。処方せん 1 枚当たり薬剤料の伸びは、投薬日数の伸びの影響が大きい。

表 4 内服薬 処方せん 1 枚当たり薬剤料の 3 要素分解

平成	実数				対前年度比(%)		
	17年度	18年度	19年度	20年度	18年度	19年度	20年度
内服薬 処方せん 1 枚当たり薬剤料(円)	4,296	4,243	4,571	4,706	▲1.2	7.7	3.0
処方せん 1 枚 当たり薬剤種類数	2.77	2.80	2.83	2.85	1.0	1.1	0.8
投薬日数(日)	16.7	17.3	17.9	18.8	3.2	3.5	5.3
1 種類 1 日当たり 薬剤料(円)	93	88	90	88	▲5.3	2.9	▲3.0

5. 薬効分類別の状況(1)(処方せん1枚当たり薬剤料)

内服薬の処方せん1枚当たり薬剤料を薬効大分類別にみると、循環器官用薬が1,371円と最も高く、次いで中枢神経系用薬が596円となっている。対前年度比は、血液・体液用薬が8.3%で最も高く、抗生物質製剤が▲5.3%で最も低い。

表5 内服薬 薬効分類別処方せん1枚当たり薬剤料

平成	実数(円)				対前年度比(%)		
	17年度	18年度	19年度	20年度	18年度	19年度	20年度
内服薬 総数	4,296	4,243	4,571	4,706	▲1.2	7.7	3.0
11 中枢神経系用薬	485	500	555	596	3.2	11.1	7.2
112 催眠鎮静剤、抗不安剤	74	74	78	84	▲0.5	5.2	7.3
114 解熱鎮痛消炎剤	81	76	81	84	▲5.4	6.5	3.9
116 抗パーキンソン剤	61	60	62	62	▲2.0	2.7	1.3
117 精神神経用剤	168	183	209	220	8.7	14.3	5.1
119 その他の中枢神経系用薬	71	78	95	113	10.1	21.6	19.0
21 循環器官用薬	1,276	1,260	1,360	1,371	▲1.3	7.9	0.9
212 不整脈用剤	92	85	87	84	▲7.0	2.3	▲4.0
214 血圧降下剤	532	546	605	614	2.6	10.9	1.6
217 血管拡張剤	286	275	286	275	▲3.9	4.0	▲3.8
218 高脂血症用剤	283	272	294	309	▲4.0	8.2	5.0
22 呼吸器官用薬	90	82	78	74	▲8.7	▲4.3	▲5.3
23 消化器官用薬	470	457	487	492	▲2.9	6.8	0.9
232 消化性潰瘍用剤	357	341	364	366	▲4.5	7.0	0.5
239 その他の消化器官用薬	53	54	58	60	2.7	7.1	2.7
25 泌尿生殖器官および肛門用薬	114	111	125	134	▲3.0	13.0	6.7
31 ビタミン剤	115	108	111	106	▲6.4	2.5	▲3.8
32 滋養強壯薬	57	58	62	64	1.0	7.0	2.9
325 蛋白アミノ酸製剤	50	50	54	56	1.2	7.5	3.3
33 血液・体液用薬	224	229	260	281	1.8	13.6	8.3
39 その他の代謝性医薬品	405	420	471	490	3.6	12.1	4.2
396 糖尿病用剤	151	158	179	187	4.6	13.0	4.9
399他に分類されない代謝性医薬品	172	180	207	221	5.0	14.5	6.9
42 腫瘍用薬	208	215	233	243	3.0	8.3	4.5
422 代謝拮抗剤	82	78	79	76	▲3.9	1.2	▲3.7
429 その他の腫瘍用薬	122	131	146	159	7.3	11.5	8.6
44 アレルギー用薬	312	300	324	341	▲4.0	8.1	5.2
52 漢方製剤	88	86	93	98	▲1.6	8.1	5.4
61 抗生物質製剤	171	161	157	149	▲5.5	▲2.5	▲5.3
613グラム陽性・陰性菌に作用するもの	89	79	77	73	▲11.4	▲2.8	▲5.3
614グラム陽性菌、マイコプラズマに作用するもの	72	73	70	66	0.3	▲3.2	▲6.4
62 化学療法剤	194	176	173	182	▲9.1	▲1.6	5.2
624 合成抗菌剤	53	52	54	52	▲2.9	4.3	▲3.3
625 抗ウイルス剤	75	70	70	81	▲6.6	▲0.0	15.1

注)表示していない項目(薬効)があるので、内訳を足し上げても総数と一致しない。

6. 薬効分類別の状況(2)(処方せん1枚当たり薬剤種類数)

内服薬の処方せん1枚当たり薬剤種類数を薬効大分類別にみると、循環器官用薬が0.60と最も多く、次いで消化器官用薬が0.49となっている。対前年度比は、漢方製剤が6.5%で最も高く、抗生物質製剤が▲2.1%で最も低い。

表6 内服薬 薬効分類別処方せん1枚当たり薬剤種類数

平成	実数				対前年度比(%)		
	17年度	18年度	19年度	20年度	18年度	19年度	20年度
内服薬 総数	2.77	2.80	2.83	2.85	1.0	1.1	0.8
11 中枢神経系用薬	0.44	0.45	0.46	0.45	1.7	2.6	▲1.5
112 催眠鎮静剤、抗不安剤	0.14	0.14	0.15	0.14	2.8	3.2	▲3.5
114 解熱鎮痛消炎剤	0.11	0.11	0.11	0.10	▲0.8	▲0.2	▲0.9
116 抗パーキンソン剤	0.02	0.02	0.02	0.02	▲0.4	1.0	▲2.7
117 精神神経用剤	0.12	0.12	0.13	0.13	4.3	4.3	▲0.4
119 その他の中枢神経系用薬	0.01	0.01	0.01	0.01	12.3	16.6	14.6
21 循環器官用薬	0.55	0.56	0.58	0.60	2.0	3.1	3.1
212 不整脈用剤	0.03	0.03	0.03	0.03	▲3.0	▲0.1	▲0.5
214 血圧降下剤	0.17	0.18	0.19	0.20	4.8	5.4	5.6
217 血管拡張剤	0.16	0.16	0.17	0.17	0.2	0.7	0.4
218 高脂血症用剤	0.09	0.09	0.10	0.11	4.2	7.0	7.8
22 呼吸器官用薬	0.29	0.29	0.27	0.27	▲1.3	▲4.7	▲1.7
23 消化器官用薬	0.49	0.50	0.50	0.49	1.1	0.3	▲1.1
232 消化性潰瘍用剤	0.25	0.25	0.25	0.25	0.1	0.4	▲0.5
239 その他の消化器官用薬	0.04	0.04	0.04	0.04	6.0	1.0	▲3.1
25 泌尿生殖器官および肛門用薬	0.03	0.03	0.03	0.03	7.4	4.0	4.6
31 ビタミン剤	0.10	0.10	0.10	0.10	▲1.5	1.4	0.7
32 滋養強壯薬	0.02	0.02	0.02	0.02	0.8	1.8	0.5
325 蛋白アミノ酸製剤	0.00	0.00	0.00	0.00	6.1	7.0	6.3
33 血液・体液用薬	0.11	0.12	0.12	0.13	4.1	4.7	4.3
39 その他の代謝性医薬品	0.18	0.19	0.20	0.21	4.6	5.1	3.3
396 糖尿病用剤	0.07	0.07	0.08	0.08	8.5	7.1	6.1
399他に分類されない代謝性医薬品	0.03	0.04	0.04	0.05	10.7	16.3	7.5
42 腫瘍用薬	0.01	0.01	0.01	0.01	0.3	0.4	0.2
422 代謝拮抗剤	0.00	0.00	0.00	0.00	▲3.8	▲2.7	▲3.8
429 その他の腫瘍用薬	0.00	0.00	0.00	0.00	4.1	2.6	3.4
44 アレルギー用薬	0.20	0.20	0.20	0.21	▲0.3	0.2	2.4
52 漢方製剤	0.05	0.05	0.05	0.06	2.4	7.3	6.5
61 抗生物質製剤	0.14	0.14	0.13	0.13	▲1.2	▲4.3	▲2.1
613グラム陽性・陰性菌に作用するもの	0.09	0.08	0.08	0.08	▲5.5	▲4.0	▲2.9
614グラム陽性菌、マイコプラズマに作用するもの	0.05	0.05	0.05	0.05	7.5	▲4.2	▲0.2
62 化学療法剤	0.04	0.04	0.04	0.04	▲3.8	▲5.3	3.6
624 合成抗菌剤	0.02	0.02	0.02	0.02	3.8	1.6	▲2.5
625 抗ウイルス剤	0.01	0.01	0.01	0.01	▲16.6	▲21.0	18.5

注)表示していない項目(薬効)があるので、内訳を足し上げても総数と一致しない。

7. 薬効分類別の状況(3)(投薬日数)

内服薬の薬効分類別投与日数を薬効大分類別にみると、最も長いのは腫瘍用薬の32.5日であり、最も短いのは抗生物質製剤の5.7日である。対前年度比は、中枢神経系用薬が10.1%で最も高く、呼吸器用薬が1.6%で最も低い。

表7 内服薬 薬効分類別投薬日数

平成	実数(日)				対前年度比(%)		
	17年度	18年度	19年度	20年度	18年度	19年度	20年度
内服薬 総数	16.7	17.3	17.9	18.8	3.2	3.5	5.3
11 中枢神経系用薬	15.6	16.0	16.4	18.0	2.6	2.4	10.1
112 催眠鎮静剤、抗不安剤	16.0	16.2	16.4	19.4	1.1	0.9	18.7
114 解熱鎮痛消炎剤	11.3	11.6	12.1	12.7	2.9	3.9	4.9
116 抗パーキンソン剤	21.2	21.7	21.8	23.2	2.4	0.5	6.0
117 精神神経用剤	18.7	19.1	19.5	20.8	2.3	2.0	6.6
119 その他の中枢神経系用薬	21.0	21.6	22.1	23.0	2.6	2.4	4.1
21 循環器用薬	24.1	24.9	25.6	26.5	3.4	2.8	3.7
212 不整脈用剤	24.9	25.7	26.4	27.3	3.1	2.7	3.7
214 血圧降下剤	24.7	25.6	26.3	27.3	3.5	2.8	3.6
217 血管拡張剤	24.3	25.1	25.8	26.7	3.2	2.8	3.6
218 高脂血症用剤	25.2	26.1	26.8	27.9	3.6	2.7	4.0
22 呼吸器用薬	7.4	7.4	7.6	7.7	0.0	1.5	1.6
23 消化器用薬	17.2	17.5	18.1	19.0	2.3	3.0	5.3
232 消化性潰瘍用剤	18.5	19.1	19.6	20.5	2.8	2.7	4.6
239 その他の消化器用薬	15.6	15.8	16.4	17.7	1.2	3.7	7.6
25 泌尿生殖器および肛門用薬	24.8	24.8	25.9	27.1	0.2	4.3	4.9
31 ビタミン剤	20.2	20.9	21.5	22.3	3.5	2.7	4.0
32 滋養強壯薬	20.8	21.3	21.8	22.5	2.3	2.2	3.4
325 蛋白アミノ酸製剤	17.7	18.0	18.4	18.9	2.0	1.8	2.9
33 血液・体液用薬	22.0	22.7	23.3	24.2	3.1	2.8	3.6
39 その他の代謝性医薬品	19.8	20.6	20.8	21.2	4.0	1.3	1.8
396 糖尿病用剤	25.8	26.6	27.4	28.4	3.2	3.1	3.6
399他に分類されない代謝性医薬品	20.1	20.1	17.6	15.5	▲0.0	▲12.2	▲11.8
42 腫瘍用薬	28.7	29.9	31.3	32.5	4.2	4.4	4.0
422 代謝拮抗剤	21.7	21.5	21.0	20.5	▲0.9	▲2.4	▲2.0
429 その他の腫瘍用薬	35.9	37.8	40.3	42.2	5.3	6.6	4.7
44 アレルギー用薬	11.6	11.9	12.3	13.0	2.5	4.1	5.6
52 漢方製剤	16.1	16.5	16.9	17.7	2.5	2.7	4.5
61 抗生物質製剤	5.4	5.5	5.6	5.7	1.5	2.2	2.1
613グラム陽性・陰性菌に作用するもの	4.2	4.3	4.3	4.4	1.2	1.1	1.3
614グラム陽性菌、マイコプラズマに作用するもの	6.7	6.7	6.9	7.1	▲0.5	3.5	2.5
62 化学療法剤	8.6	8.8	9.1	9.5	2.9	3.6	4.1
624 合成抗菌剤	5.2	5.2	5.2	5.3	▲0.4	0.4	1.6
625 抗ウイルス剤	5.7	6.5	7.6	7.8	14.5	18.0	2.5

注)表示していない項目(薬効)がある。

8. 薬効分類別の状況(4)(1種類1日当たり薬剤料)

内服薬の1種類1日当たり薬剤料を薬効大分類別にみると、最も高いのは腫瘍用薬の1,266円であり、最も低いのは呼吸器官用薬の36円である。

対前年度比は、腫瘍用薬が0.3%で最も高く、ビタミン剤が▲8.1%で最も低い。

表8 内服薬 薬効分類別1種類1日当たり薬剤料

平成	実数(円)				対前年度比(%)		
	17年度	18年度	19年度	20年度	18年度	19年度	20年度
内服薬 総数	93	88	90	88	▲5.3	2.9	▲3.0
11 中枢神経系用薬	71	70	74	73	▲1.2	5.7	▲1.2
112 催眠鎮静剤、抗不安剤	34	32	33	31	▲4.3	1.1	▲6.4
114 解熱鎮痛消炎剤	67	62	64	64	▲7.3	2.8	▲0.0
116 抗パーキンソン剤	151	145	147	144	▲3.9	1.1	▲1.8
117 精神神経用剤	77	78	84	83	1.9	7.4	▲1.1
119 その他の中枢神経系用薬	442	423	430	429	▲4.4	1.7	▲0.2
21 循環器官用薬	96	90	92	87	▲6.3	1.8	▲5.7
212 不整脈用剤	129	120	119	111	▲7.0	▲0.2	▲7.0
214 血圧降下剤	125	119	121	113	▲5.4	2.4	▲7.1
217 血管拡張剤	72	67	67	62	▲7.1	0.4	▲7.6
218 高脂血症用剤	126	112	110	103	▲11.1	▲1.5	▲6.3
22 呼吸器官用薬	41	38	38	36	▲7.5	▲1.1	▲5.2
23 消化器官用薬	56	53	54	53	▲6.2	3.3	▲3.1
232 消化性潰瘍用剤	76	71	73	71	▲7.3	3.7	▲3.4
239 その他の消化器官用薬	88	85	87	85	▲4.2	2.2	▲1.5
25 泌尿生殖器官および肛門用薬	161	145	151	147	▲9.8	4.2	▲2.7
31 ビタミン剤	55	51	50	46	▲8.1	▲1.6	▲8.1
32 滋養強壯薬	115	112	116	114	▲2.1	2.9	▲1.0
325 蛋白アミノ酸製剤	734	687	678	640	▲6.5	▲1.3	▲5.6
33 血液・体液用薬	90	85	90	90	▲5.1	5.6	0.3
39 その他の代謝性医薬品	113	108	113	112	▲4.8	5.3	▲0.9
396 糖尿病用剤	90	84	86	82	▲6.6	2.2	▲4.6
399他に分類されない代謝性医薬品	246	233	262	295	▲5.1	12.2	12.8
42 腫瘍用薬	1,240	1,221	1,262	1,266	▲1.5	3.4	0.3
422 代謝拮抗剤	1,459	1,469	1,564	1,598	0.7	6.5	2.2
429 その他の腫瘍用薬	1,147	1,122	1,144	1,147	▲2.1	1.9	0.3
44 アレルギー用薬	132	124	128	125	▲6.0	3.6	▲2.8
52 漢方製剤	111	104	102	97	▲6.1	▲1.9	▲5.4
61 抗生物質製剤	223	210	210	199	▲5.8	▲0.3	▲5.2
613グラム陽性・陰性菌に作用するもの	241	223	223	215	▲7.5	0.1	▲3.8
614グラム陽性菌、マイコプラズマに作用するもの	226	212	207	189	▲6.2	▲2.4	▲8.5
62 化学療法剤	576	529	531	518	▲8.2	0.3	▲2.5
624 合成抗菌剤	501	470	481	470	▲6.2	2.3	▲2.3
625 抗ウイルス剤	1,259	1,232	1,320	1,252	▲2.1	7.1	▲5.2

注) 表示していない項目(薬効)がある。

9. 薬効分類別の状況(5)(後発医薬品割合(薬剤料ベース))

内服薬の薬効大分類別に薬剤料ベースでみた後発医薬品割合は、ビタミン剤の44.6%が最も高く、次いで呼吸器官用薬が14.2%となっている。

対前年度差は、消化器官用薬が1.4%ポイントで最も高く、泌尿生殖器官および肛門用薬が▲0.6%ポイントで最も低い。

表9 内服薬 後発医薬品割合(薬剤料ベース)

平成	実数(%)				対前年度差(%ポイント)		
	17年度	18年度	19年度	20年度	18年度	19年度	20年度
内服薬 総数	4.6	5.2	5.5	6.3	0.6	0.3	0.8
11 中枢神経系用薬	2.3	2.4	2.6	3.0	0.2	0.1	0.5
112 催眠鎮静剤、抗不安剤	3.0	3.6	4.1	5.0	0.5	0.5	0.8
114 解熱鎮痛消炎剤	4.3	4.9	5.1	5.8	0.6	0.2	0.7
116 抗パーキンソン剤	2.0	2.3	2.5	2.8	0.3	0.2	0.3
117 精神神経用剤	1.2	1.2	1.5	2.1	0.0	0.2	0.7
119 その他の中枢神経系用薬	0.2	0.2	0.2	0.2	0.0	▲0.0	▲0.0
21 循環器官用薬	2.7	3.2	3.4	4.7	0.5	0.2	1.3
212 不整脈用剤	3.4	3.7	4.1	5.0	0.3	0.4	0.9
214 血圧降下剤	1.0	1.2	1.3	1.5	0.2	0.1	0.2
217 血管拡張剤	1.5	2.1	2.6	7.4	0.6	0.5	4.9
218 高脂血症用剤	5.3	6.3	6.4	6.7	1.0	0.2	0.2
22 呼吸器官用薬	13.2	13.4	13.2	14.2	0.2	▲0.3	1.1
23 消化器官用薬	6.5	7.9	8.5	9.9	1.3	0.6	1.4
232 消化性潰瘍用剤	4.2	5.3	5.9	7.3	1.2	0.6	1.3
239 その他の消化器官用薬	1.2	1.3	1.2	1.4	0.1	▲0.1	0.2
25 泌尿生殖器官および肛門用薬	3.6	5.4	4.9	4.4	1.8	▲0.5	▲0.6
31 ビタミン剤	41.9	42.6	43.4	44.6	0.8	0.7	1.2
32 滋養強壮薬	2.0	2.3	2.2	2.7	0.3	▲0.1	0.5
325 蛋白アミノ酸製剤	1.5	1.7	1.5	1.8	0.2	▲0.2	0.3
33 血液・体液用薬	6.6	7.4	7.5	8.3	0.9	0.1	0.8
39 その他の代謝性医薬品	4.1	5.3	5.7	6.7	1.2	0.4	1.0
396 糖尿病用剤	2.7	4.8	5.6	7.4	2.1	0.8	1.7
399他に分類されない代謝性医薬品	1.8	2.8	3.2	3.7	1.0	0.3	0.5
42 腫瘍用薬	1.3	1.3	1.3	1.4	▲0.0	▲0.0	0.1
422 代謝拮抗剤	0.1	0.1	0.1	0.0	▲0.0	▲0.0	▲0.0
429 その他の腫瘍用薬	2.1	2.0	1.9	2.0	▲0.1	▲0.1	0.1
44 アレルギー用薬	2.9	2.9	3.6	4.6	0.0	0.7	0.9
52 漢方製剤	—	—	—	—	—	—	—
61 抗生物質製剤	1.1	2.5	4.1	5.0	1.4	1.6	0.9
613グラム陽性・陰性菌に作用するもの	1.2	1.4	1.9	2.2	0.3	0.4	0.3
614グラム陽性菌、マイコプラズマに作用するもの	0.4	3.3	6.4	8.0	2.9	3.1	1.6
62 化学療法剤	4.1	4.9	5.5	5.6	0.8	0.5	0.1
624 合成抗菌剤	0.9	1.0	1.2	1.0	0.0	0.2	▲0.2
625 抗ウイルス剤	4.7	4.5	3.7	2.7	▲0.3	▲0.7	▲1.0

注)表示していない項目(薬効)がある。

10. 参考:後発医薬品割合(数量ベース)

数量ベースでみた後発医薬品割合は 18.0%となっており、対前年度差は 1.9%ポイントとなっている。

表10 参考:後発医薬品割合(数量ベース)

平成	実数(%)				対前年度差(%ポイント)		
	17年度	18年度	19年度	20年度	18年度	19年度	20年度
後発医薬品割合 (数量ベース)	14.1	15.4	16.1	18.0	1.3	0.7	1.9